

気付きの質を高める生活科の指導

－思考と気付きの関係に着目して－

生活科研究会議

研究員 桑原 千春（川崎市立殿町小学校）

村上 恵子（川崎市立有馬小学校）

北所 邦美（川崎市立栗木台小学校）

指導主事 中西 憲子

I 主題設定の理由

「気付き」は、生活科を特徴付ける言葉であり、新設当初から大切にされてきた。前回の改訂においても、「知的な気付きを大切にする指導」を改善の基本方針に位置付けてきたところである。今回の改訂では「気付き」を、「対象に対する一人一人の認識であり、児童の主体的な活動によって生まれるものである。そこには、知的な側面だけではなく、情意的な側面も含まれる。また、気付きは次の自発的な活動を誘発するものとなる。」と定義するとともに、「気付きの質を高める学習活動の充実」を要点として示している。¹「知的な気付き」が教師の「気付き」に対する認識であるのに対して、「気付きの質を高める」ことは、教師の学習指導の在り方を問うている。これまでの生活科の課題として、学習活動が体験だけで終わり、活動や体験を通して得られた気付きを質的に高める指導が十分に行われていないという指摘がある。先に記したように、気付きは次の自発的な活動を誘発するものである。したがって、活動を繰り返したり対象とのかかわりを深めたりする学習活動の充実こそが、気付きの質を高めていくことにつながる。このことは、子どもの気付きが、教師が行う単元構成や学習環境の設定、学習指導によって高まることを意味している。気付きの質を高める視点から指導を見直し、生活科の授業の一層の充実を図りたいと考え、主題を設定した。

II 研究の内容

1 気付きの質を高める

気付きは、活動を繰り返したり対象とのかかわりが深まったりすることに伴い「無自覚なものから自覚された気付き」へ、「一つ一つの気付きから関連付けられた気付き」へと質的に高まっていくことが大切である。気付きの質の高まりを明確にするためには、気付きを段階的にとらえる必要がある。生活科研究会議では、先行研究2例²の分析をもとに、気付きの質の高まりを「気付きのステップ」に図式化した。

2 思考と気付きの関係

子どもは一つの活動や体験の中で、様々な思考をし、多様な気付きをしていく。思考の活動が充実していれば、より高い気付きが生まれると考えられる。段階的に気付きの質を高めるためには、それに合わせて思考の活動を伴わせることが必要である。

表1 先行研究例

先行研究	階層	気付きの質の高まり
仙台市立広瀬小学校 「気付きのビルディング」	3	「存在の気付き」「意味や価値の気付き」(関連付けられた気付き) 「これからの自分についての気付き」
越谷市立萩島小学校 「気付きのスパイラル」	5	「断片的な気付き」「直線的な気付き」(関連付けられた気付き) 「まとまりのある気付き」「生活に生かす気付き」

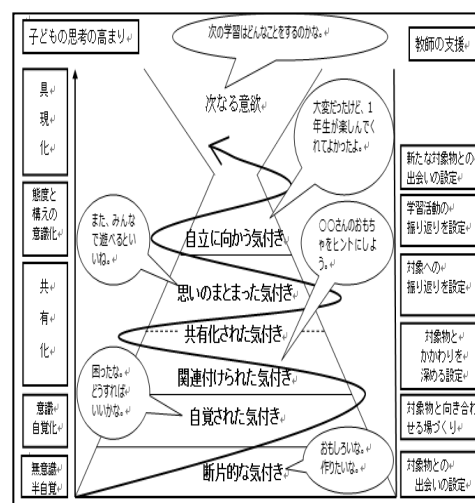


図1 気付きのステップ

¹ 文部科学省『小学校学習指導要領解説 生活編』日本文教出版 2008年 p. 4

² 国立教育政策研究所教育課程研究センター関係指定事業関連資料 2011年

3 検証授業

(1) 授業の視点

「気付きのステップ」をもとに、単元の中で段階的に気付きの質を高めるためにはどんな活動が必要か、その活動でどのような思考をさせたいのかを構想し、めざす子どもの姿を設定する。さらに、「気付きのステップ」、「思考と気付きの関係」（気付きの質を高める活動・思考）を単元計画に位置付け、モデレーション³によって着目児童の姿を見取り、その有効性を検証する。着目児童の姿から思考と気付きの関係を見取れた部分は「着目児の気付きの質の高まり」の文中に太字で記す。また、想定した「気付きのステップ」より上位の姿は下線、課題と思われた姿は下線で示す。

(2) 検証授業1 たのしもう！うごくおもちゃ

①単元目標

身近にあるものを使い、動くおもちゃを工夫して作り、おもちゃ作りやそれを使った遊びを通して、その動きのおもしろさや不思議さに気付き、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。

②指導と評価の計画 (2年) 内容(6) 自然や物を使った遊び

小単元名 (時数)	主な学習活動(気付きの質を高める活動・思考)	気付きの ステップ	評価規準【評価方法】
1 作ろう！ うごく おもちゃ (9)	<p>〔小単元目標〕おもちゃの仕組みや素材に関心を持ち、作りたいおもちゃを考え、動くおもちゃを工夫して作ろうとする。</p> <p>○動くおもちゃで遊んだ経験を想起し、「ぴよんガエル」を作って遊ぶ。 (想起する・遊ぶ・作る・試す・交流する)</p> <p>○教科書や本で調べ、動くおもちゃ作りの計画を立てる。(計画書をかく・動く仕組みを考える・作り方を考える・手順を考える・調べる・材料を集める)</p> <p>○計画書をもとに、手順を考えて動くおもちゃを作る。</p> <p>○おもちゃがよりよく動くように試しながら遊び、もっとよくするために手直しをする。 (作る・見合う・教え合う・試す・遊ぶ)</p> <p>○作ったおもちゃで1年生と一緒に遊ぶ。 (遊ぶ・比べる・競争する・試す・繰り返す・検討する・手直しする・伝える)</p>	<p>断片的な</p> <p>自覚</p> <p>関連付け 共有化</p>	<p>関①：動くおもちゃに関心を持ち、楽しく遊ぼうとしている。【行動観察】</p> <p>思①：身近にある物から動くおもちゃを考えたり、使ってみたい物を見つけたりしている。【計画書・行動観察】</p> <p>関②：よりよい動きへの思いや願いを持ち、自分の作りたい動くおもちゃを作ろうとしている。【行動観察】</p> <p>思②：比べたり、試したり、見立てたりして、動くおもちゃを工夫して作っている。 【行動観察・振り返りカード】</p> <p>気①：身近にある物から動くおもちゃを作って遊べることや楽しさに気付いている。【おもちゃカード】</p>
2 楽しく 遊ぼう (6)	<p>〔小単元目標〕1年生や友達とかかわって遊ぶ楽しさや友達のよさに気付き、みんなで楽しく遊ぼうとする。</p> <p>○「おもちゃランド」について話し合う。 (話し合う・約束を決める)</p> <p>○「おもちゃランド」の準備をする。</p> <p>○「おもちゃランド」を開く。 (遊ぶ・比べる・競争する・試す・繰り返す・検討する・手直しする・伝える)</p> <p>○自分のおもちゃのじまんカードを書く。 (振り返る・おもちゃのよさを考える・友達のおもちゃのよさを見付ける・活動を意味付ける・自分のよさを考える)</p>	<p>思い 自立</p>	<p>関③：1年生や友達と一緒に作ったおもちゃで楽しく遊ぼうとしている。 【行動観察・振り返りカード・つぶやき】</p> <p>思③：動くおもちゃでの自分なりの遊び方を考えている。【発言・行動観察】</p> <p>関③：1年生や友達と一緒に作ったおもちゃで楽しく遊ぼうとしている。 【行動観察・つぶやき】</p> <p>気②：1年生や友達とかかわって遊ぶ楽しさや自分や友達のよさに気付いている。 【じまんカード・発言・行動観察】</p>

³ 文部科学省「初等教育資料」東洋館出版社 2011年8月号 p.22 - 25

③着目児の気づきの質の高まり

着目児Aは、自分の考えをもってよりよく活動しようと工夫する。文章で自分の気持ちを表現したり、思いを伝え合ったりすることに苦手意識があるので、おもちゃを媒体に友達とのかかわりが広がること、かかわりの楽しさを実感することを期待している。

ア 断片的な気づき

おもちゃで遊ぶ楽しさに気付いている。

手作りの動くおもちゃを作ったことがあるかどうかを子どもたちに投げかけるとAの発言はなかったが、その後、簡単に作れるおもちゃを**作って遊んだ**感想を図2のように書いた。さらに他のおもちゃで**友達と遊んでいる**ときに「おもちゃを自分で作りたい。」「おもちゃっておもしろいね。」と**話し**、おもちゃで遊ぶ楽しさに気付いていた。

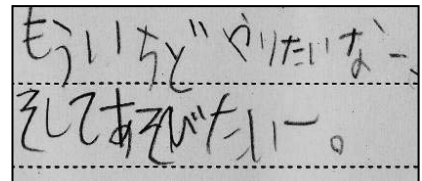


図2 Aの振り返りカード

イ 自覚された気づき

身近にある物から動くおもちゃを作って遊べる楽しさに気付いている。

本や資料を活用し、どんなおもちゃを作りたいかを**考えた**。初めは、マヨネーズの空き容器と風船を組み合わせ、空気の力を利用したロケットを作る**計画を立てて材料を集めてきた**。実際に作り始めると、途中で**計画書を赤で修正**している。(図3)自分がイメージしている直線的な動きに材料が合わないことに**気づき**、**別の方法を考えよう**としている表れであると考えられる。**作ったり試したりする過程では**、羽にクリップを付けるという工夫が見られた。「**もっとまっすぐに飛ばしたい。**」という**思いをもち**、自分のイメージに合った**友達の作品を観察し**、おもりを付けることに**気付いていた**。

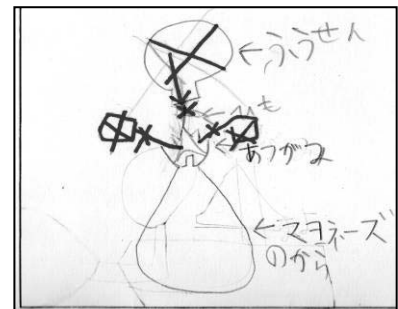


図3 Aの計画書への記入

ウ 関連付けられた気づき・共有化された気づき

友達と教え合いながら、遊びを工夫したり遊びを創り出したりの面白さに気付いている。

さらに作っていく中で、ロケットを頑丈にしようとして羽にカラーテープを貼って改良したり、ロケットの大きさを変えてどれがよく飛ぶかを**比較したりして**、**試行錯誤**する姿が見られた。これは、ロケットを作っている同じグループの友達同士でよいところを**真似したり**、**教え合ったりして**ロケットがよりよく飛ぶ**工夫を共有した姿**であると考えた。また、友達からもらった**アドバイスをもとに違う材料の羽を試していた**。**作り直して試すことから**、自然に飛距離を競い合う場を構成し、飛ばす場所や回数を変える等**ルールを更新しながら友達と遊びを工夫**していた。

友達からもらったアドバイス

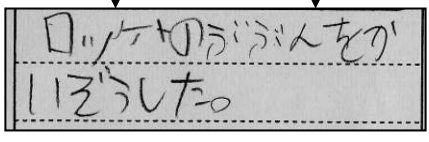
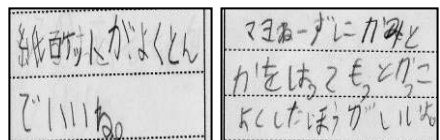


図4 友達とAのカードの交換

エ 思いのまとまった気づき・自立に向かう気づき

1年生や友達とかがわって遊ぶ楽しさや自分や友達のよさに気付いている。

1年生と**交流する**活動では、自分のロケットのコーナーに多くの1年生が遊びに来ていることに喜び、自分から**よく声をかけて遊んでいた**。自分が他のコーナーで遊ぶ時間に、ロケットコーナーに1年生が集まっているのを見ると、戻って来て**1年生と遊んでいた**。担任が「遊びに行かなくていいの？」とたずねると、「**1年生が待っているから。**」と答えた。自分の3つのロケットの飛び方を**紹介し**、1年生に**選ばせていた**。活動の振り返りには、「1年生がたくさん来てくれて嬉しかった。」と書いていた。自分のおもちゃの**自慢カード**には「1号はよく飛ぶ」「2号は急降下」「3号は2号と同じ」と記していた。「よく飛ぶのを作れた」「ちゃんと作れた」とロケットについての表記のみであったが、自分のおもちゃを価値付けているのは、1年生がたくさん遊びに来てくれたことではないかと思われた。自分の言葉で、1年生とのかかわりが表出できるように、全体での感想交流や振り返り方を工夫する必要があった。

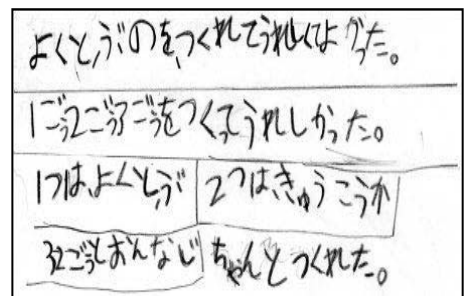


図5 Aのおもちゃの自慢カード

(3) 検証授業2 会いたいな キラリと光るまちの人(2年)

①単元の目標

地域を探検したり、地域の人々と交流したりする活動を通して、自分の生活が地域の人々や場所に支えられていることや地域の人々とかかわることの楽しさが分かり、親しみをもって地域の人々と接したり進んで交流したりすることができるようにする。

②指導と評価の計画 内容(3) 地域と生活(8) 生活と出来事の交流

小単元名 (時数)	主な学習活動(気付きの質を高める活動・思考)	気付きの ステップ	評価規準【評価方法】
1 町の人の キラリを さがそう (6)	<p>○春の町探検や毎日の生活から、名人だと思ふ人やすてきだと思ふ人をカードにかいて発表する。(思い出す・かく・発表する)</p> <p>○行ってみたい場所や会ってみたい人を決め、「キラリを探そう」町探検の作戦を立てる。(計画を立てる)</p> <p>○自分たちの作戦をもとに「キラリを探そう」町探検を行い、探検した場所や人の「キラリ」を探検カードや写真で記録する。(見学をする・写真をとる・メモする)</p> <p>○探検で見つけた町の「キラリ」を写真をもとに発表する。(発表する・感想を書く)</p>	断片的な 自覚	<p>関①：地域で生活したり働いたりしている人々に関心をもってかかわろうとしている。【カード・発言】</p> <p>思①：相手やその場所に応じた行動について考え、活動の計画を立てたり、約束を決めたりしている。【計画書・発言】</p> <p>思②：安全に気を付けたり、その場の状況を考えたりしながら行動している。【行動】</p> <p>気①：地域では様々な人々が生活したり働いたりしていることに気付いている。【発言・振り返りカード】</p>
2 みつけた 町の人の キラリは これ! (6)	<p>○もっと会ってみたい人や調べてみたい人を決めて、お手紙やFAXで気持ちを伝える。(手紙を書く)</p> <p>○「町の人のキラリインタビュー」で質問する内容を話し合う。(質問を考える・質問を分類する・質問を選ぶ)</p> <p>○2回目の「キラリを探そう町探検」をする。(見学をする・写真をとる・メモする)</p> <p>○2回目の町探検で見つけたことをクイズにして交流する。(写真を選ぶ・クイズをつくる・活動を振り返る)</p>		<p>関②：前の探検で気付いたことを生かして、地域の人と楽しく伝え合い、繰り返し交流しようとしている。【手紙・話し合い】</p> <p>思①：相手やその場所に応じた行動について考え、活動の計画を立てたり約束を決めたりしている。【計画書・発言】</p> <p>思②：安全に気を付けたり、その場の状況を考えたりしながら行動している。【行動】</p> <p>気②：地域で生活したり働いたりしている人や様々な場所が自分たちの生活を支えていることに気付いている。【発言・学習カード】</p>
3 町の人に キラリの 贈り物を しよう (8)	<p>○2回の町探検で見つけた町の人の「キラリ」をまとめ、発表会の準備をする。(発表方法を選ぶ・作品を作り練習をする)</p> <p>○お世話になった地域の人へ招待状を書く。(招待状を書く)</p> <p>○地域の人や保護者を招待して、「町のキラリ」発表会を開く。(発表を聞き合う)</p> <p>○町探検や発表会について話し合い、活動を振り返って作文を書く。(活動を振り返る・お礼の手紙を書く)</p>	思い 自立	<p>思③：地域の人々や場所のよさが伝わるように、伝え方の工夫をしている。【作品・発表会・招待状】</p> <p>関③：地域の人々に親しみや愛着をもち、繰り返しかかわろうとしている。【発表会・行動観察】</p> <p>気③：親しみや愛着のある場所が増えたり地域の人々と適切に接したりできるようになった自分に気付いている。【発言・作文】</p>

③着目児の気づきの質の高まり

着目児Bは、自分から発言することは多くないが、体験したことや感じたことを根拠に自分の考えをもって行動している。自分の気づきに自信をもって、自分から行動する姿を期待している。

ア 断片的な気づき

町の中に会いたい人や行きたい場所があることに気付いている。

春のまち探検や日常生活でのまちの人々との出会いを思い出し、友達と**交流**することで、「ケーキ屋さんを探検したいです。」「どんなものを使っているかわからないので、何があるか楽しみです。」という思いをもち、**探検への意欲**を高めた。

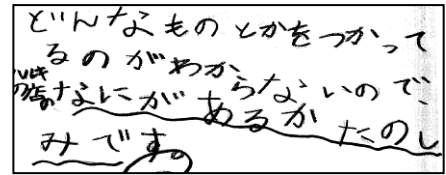


図6 Bのアンケート用紙

イ 自覚された気づき

地域では様々な人々が生活したり働いたりしていることに気付いている。

探検では、「一生懸命ケーキを作ったりお仕事をしたりしている。」「リボンできれいにラッピングしてる。」と探検ノートに**メモ**した。探検後には「ケーキ屋さんに行くグループになってよかったし、キラリを見つけられてよかった。」と活動を**振り返り**、当初「わからない」と思っていたことが、分かったことに満足した様子が見て取れた。探検で見付けたことの自覚化を促すために、撮影した写真から一枚を選ばせると、「ラッピングする店員さんの写真」を選び、紹介した。「一生懸命にお仕事をしているところ」を「よさ」ととらえている。「ぼくは、誕生日のケーキをきれいに包んでもらったことがある。」という**友達の発言から自分たちの生活とのかかわりを意識**し、「きれいに包んでいるのは、お客さんを喜ばせるためだと思います。ケーキ屋さんのことを、まだ知らないところもあるのでもっと知りたいです。」とケーキ屋さんの思いを**類推**していた。

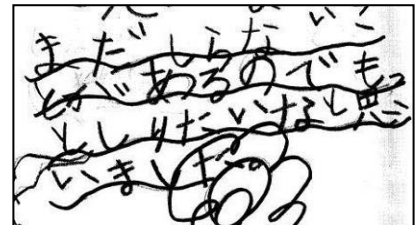


図7 Bの探検の振り返り①

2回目の探検では、「なんできれいに包んでいるのですか。」という**質問**をした。「(きれいに包まないとお客さんが嫌な気持ちになるからです。」という回答を受け、「お客さんが来たときには、**がんばってください**と思いました。」と活動を**振り返**った。「がんばってください。」という表現からは、ケーキ屋さんの思いに**共感**し、**親しみ**を感じていることが読み取れる。

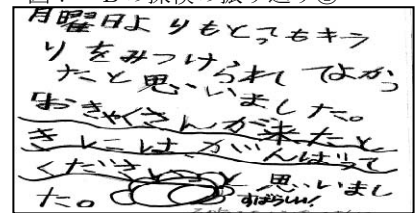


図8 Bの探検の振り返り②

ウ 関連付けられた気づき・共有化された気づき

地域で生活したり働いたりしている人や様々な場所が自分たちの生活を支えていることに気付いている。

ケーキ屋さんを探検して見付けたよさや考えたことをエプロンシアターの**作品にまとめ、発表**した。友達との発表会では、他のグループの発表の中の「いろいろな名人という言葉がよかったです」と**感想**をもった。「いろいろな名人」という言葉から「ケーキ屋さんのよさ」と**関連付けて**、他のグループの発表を聞くことができていた。町の人を招いての発表会には、「はっきりとゆっくりと言いたいです。」と**めあてをもって臨もう**としていた。自分たちの発表への自信の表れであると読み取った。

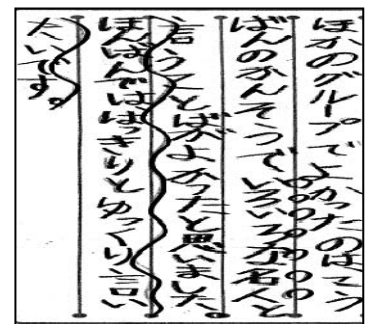


図9 Bの発表会の振り返り①

エ 思いのまとまった気づき・自立に向かう気づき

親しみや愛着のある場所が増えたり地域の人々と適切に接したりできるようになった自分に気付いている。

家族や1年生、お世話になったまちの人、他のクラスの友達を招待した2回目の「キラリ発表会」の後には、「がんばって言うことができました。次は、**3年生や4年生をよんで**発表会を開きたいです。」と活動を**振り返**った。上級生を招待して町の人々のよさを伝えたいという思いから、発表に満足していることが読み取れた。活動の最後には、お礼の手紙を書き、友達と一緒に届けた。手紙には、「**感謝の気持ち**とともに「クリスマスケーキを買いに行きます。」と書いた。**その後自分で買いに行き、家族と食べた**そうである。活動が実際の生活の中での意欲を高めていると考えられる。

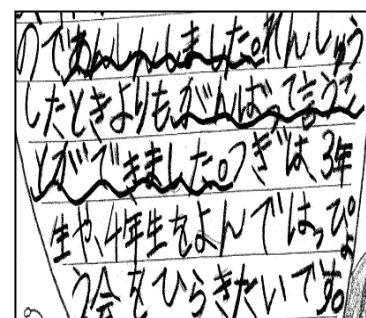


図10 Bの発表会の振り返り②

Ⅲ 研究のまとめ

1 「気付きの質の高まり」「思考と気付きの関係」から単元を構成する

「気付きのステップ」をもとに、単元に「気付きの質の高まり」を段階的に位置付けたことは、めざす子どもの姿を具体的にし、どんな活動が必要なのか、その活動でどのような思考をさせたいのかを教師が明確にもって指導することにつながった。また、「思考と気付きの関係」から、モデレーションによって子どもの姿を適切に見取ることができた。教師の想定を越えた子どもたちの活動や思考は、「気付きの質を高める」ための指導の見直しとして貴重な資料となった。

2 「気付きのステップ」の見直し

6つの階層で気付きの質の高まりをとらえた「気付きのステップ」は、めざす子どもの姿を想定する際に有効であった。反面、「関連付けられた気付き」と「共有された気付き」、「思いのまとまった気付き」と「自立に向かう気付き」については、識別が曖昧であった。階層が微細であることは、めざす子どもの姿を具体的にとらえることにはつながるが、具体の子どもの姿を階層に当てはめてしまうことが危惧された。「気付きのステップ」の役割は、気付きを段階的にとらえて気付きの質を高める指導に資することであり、微細に階層を分けることは適切でないと考え、図11のように見直しを図った。

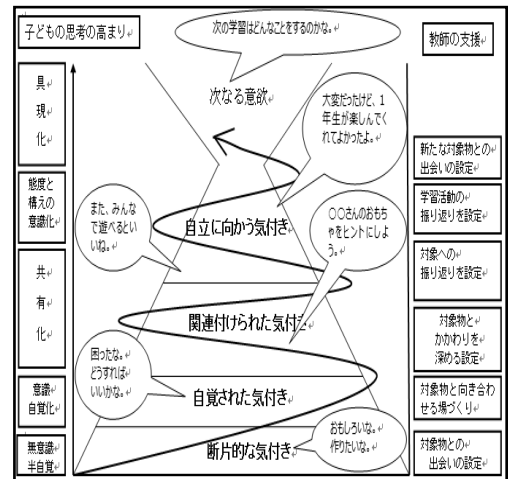


図11 「気付きのステップ」の見直し

3 学年と単元による留意点

2つの検証授業は、2年生の単元で行ったため、これまでの学校生活での体験や既習の内容が単元の入り口での「断片的な気付き」につながった。子どもたちが対象への認識をもっており、それらを自覚化させることから学習を展開することができた。しかし、1年生の学習や初めての対象とかわるような単元では、対象とのかかわりを質的にも量的にも十分とる必要がある。それぞれの気付きの段階を子どもの発達段階や経験の積み重ねに応じて、単元の中でどのような比重で位置付けていくかを考える必要がある。

4 今後の課題

具体的な子どもの姿で気付きをとらえ、活動や思考を合わせて単元に位置付けていくことは、気付きの質を高める指導に有効であった。どのような発問をすること、板書をする事、振り返りをする事等が有効であるのか、1時間の授業レベルで検証し、さらに具体的な授業改善の方策を探っていくことが課題である。

最後に、研究を進めるに当たり、適切なお助言をいただきました先生方、研究員所属校の校長先生ならびに教職員の皆様に心から感謝し厚くお礼申しあげます。

【参考文献】

野田 敦敬 『小学校学習指導要領の解説と展開 生活編』 教育出版 2008年
 田村 学 『今日的学力をつくる 新しい生活科授業づくり』 明治図書 2009年

【指導助言】

道田 公美子 川崎市立小学校生活科・総合的な学習教育研究会長（川崎市立東高津小学校長）